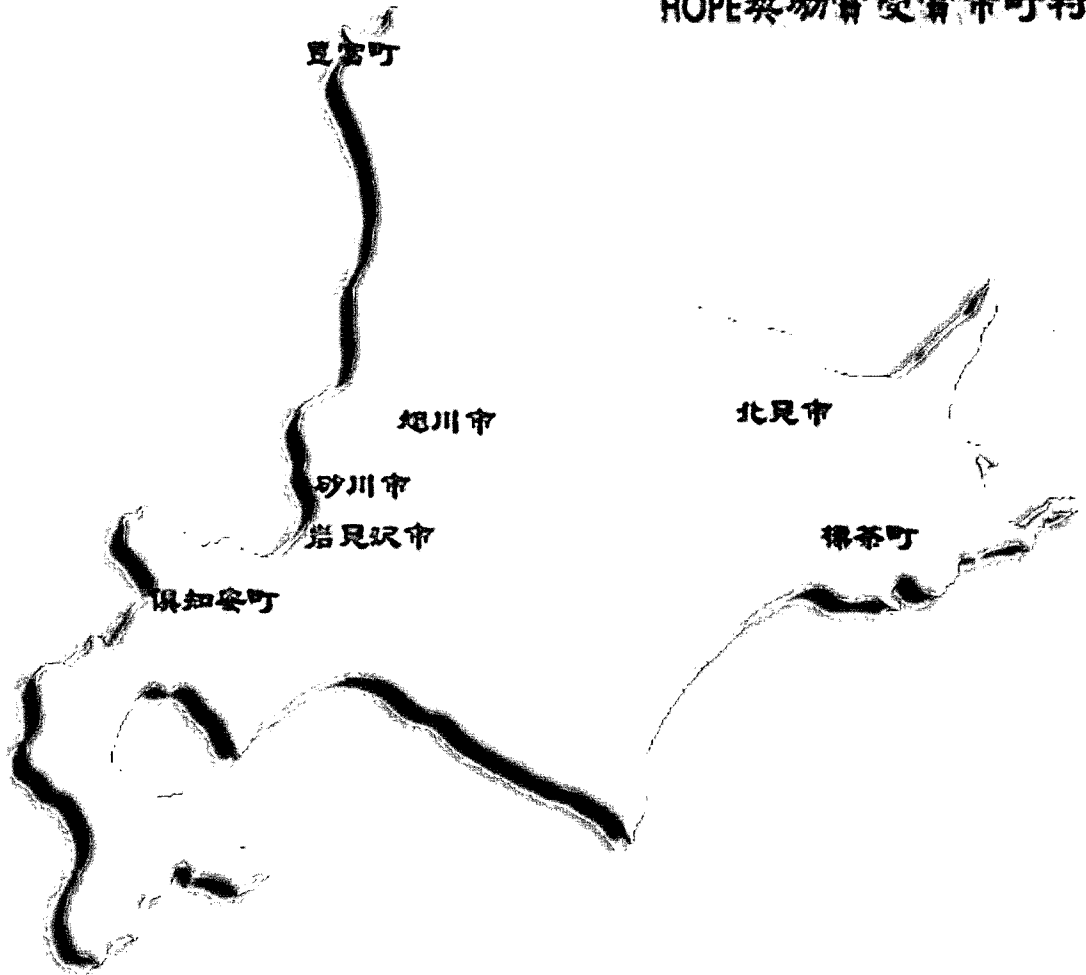


HOPE 奨励賞

北海道
HOPE奨励賞受賞市町村



岩見沢ホープ住宅設計指針による
都市型住宅のモデルに「日の出南団地建替事業」



事業概要

- ・ 策定のテーマを「キビタキの詩が聞こえる都市に住みたい」とし、住宅の整備等に関する現状と課題に関し、良好な市街地形成、地域文化の育成、地域住宅生産の振興について、長期的な住宅整備方針並びに推進すべき具体的な施策をまとめ、同計画を完了している。
- ・ 「日の出南団地建替事業」は、岩見沢ホープ計画の中で都市型集合住宅のモデルとし、ゆとりのある敷地に低層住宅を配置し、周辺住民も利用可能な公園、オープンスペース、共同利用施設など地域に開かれ、また、自然とふれあうことのできる緑豊かな住環境を整備し、アトリウムなどによるコミュニティのしかけづくりを盛り込んでいる



計画概要

敷地面積	17.162㎡	
	Aタイプ 1棟18戸×2	
	Bタイプ 1棟18戸×3	合計5棟 90戸
建築面積	Aタイプ 561.85㎡	
	Bタイプ 543.80㎡	
延べ床面積	Aタイプ 1657.83㎡	
	Bタイプ 1516.96㎡	
構造・形式	RC（壁式）3階建 階段室型	
タイプ別住戸面積		
	Aタイプ 2LDK 64.04㎡	12戸
	3LDK 75.92㎡	4戸
	Bタイプ 2LDK 62.67㎡	18戸
	3LDK 72.75㎡	36戸

事業実施場所 岩見沢市日の出南1, 2丁目
 事業種別 住宅団地
 事業制度 公営住宅事業
 事業主体 岩見沢市
 事業実施年度 平成6年度開始、平成10年度終了



日の出北団地建替事業（法定 重点団地指定）



事業概要

- 当団地は、緑豊かで閑静な成熟した住宅街に郊外型住宅として配置されてきたが、建物の老朽化や設備の不備により時代の生活水準に対応できないものとなっている。また、入居者も高齢化が進む中で公営住宅の果たす役割を十分考慮し、人と自然と社会の調和のとれた自然環境、都市環境、居住環境づくりを目的とする。
- 「緑とやすらぎのある環境へ」を基本テーマとして、寒さを克服し四季を楽しめる環境づくり、豊かな街づくりを意識した環境づくり、高齢化社会に対応した住みよい環境づくりに建替事業の主眼をおく。



計画概要

敷地面積	9,658㎡	
住棟	1棟24戸×2 1棟16戸×1	
	合計 3棟 64戸	
建築面積	1号棟 (24戸)	645.65㎡
	2号棟 (16戸)	445.00㎡
	3号棟 (24戸)	648.70㎡
延べ床面積	1号棟 (24戸)	1,954.00㎡
	2号棟 (16戸)	1,361.05㎡
	3号棟 (24戸)	2,018.19㎡
構造・形式	RC（壁式）4階建 階段室型	
タイプ別住戸面積	2LDK-1	54.95㎡
	2LDK-2	57.25㎡
	2LDK-3	58.12㎡
	3LDK-1	65.51㎡
	3LDK-2	67.81㎡
	3LDK-3	69.01㎡

事業実施場所 岩見沢市日の出北4丁目
 事業種別 住宅団地
 事業制度 公営住宅事業
 事業主体 岩見沢市
 事業実施年度 平成3年度開始、平成5年度終了



第1 東光団地建て替え事業



事業概要

『ウイントピアをめざす冬を快適にする住まいとまちづくり』をメインテーマに、地域に開かれた特色ある広場の設置や、ポリカーボネート製屋根の明るいカバードウオークの設置など、旭川HOP E計画の主旨を踏まえた、地域性の高い公営住宅団地の建替事業である。

計画概要

敷地面積	2,215㎡
建築面積	1号棟 540.69㎡、2号棟 757.03㎡ 3号棟 615.62㎡、4号棟 430.33㎡ 5号棟A 474.03㎡、5号棟B 373.48㎡
延べ床面積	1号棟 2,153.15㎡、2号棟 5,716.19㎡ 3号棟 3,555.33㎡ (うち公民館1,683.90㎡) 4号棟 3076.82㎡ 5号棟A 3,660.09㎡ 5号棟B 1,683.90㎡
構造	1・4・5号棟：鉄筋コンクリート造 2・3号棟：鉄骨鉄筋コンクリート造
型式	1LDK、2LDK、3LDK
417°別 住戸面積	1LDK 46.28㎡ 2LDK 53.14㎡～62.63㎡ 3LDK 63.26㎡～68.03㎡
住戸数	1号棟 30戸、2号棟 64戸、3号棟 36戸 4号棟 36戸、5号棟A35戸、5号棟B20戸
階数等	1号棟 5階建、2号棟 9階建、 3号棟 10階建、4号棟 6階建、 5号棟A 7階建、5号棟B 5階建



事業実施場所	旭川市東光10条3丁目
事業種別	公営住宅団地
事業制度	公営住宅建替事業
事業主体	旭川市
事業実施年度	昭和61年度～平成2年度



砂川市ハウジングアメニティ計画



事業概要

< 建設計画の理念 >

三砂団地の建設計画の理念は、砂川市の街づくりの目標（しあわせで緑豊かな公園都市の建設）、公営住宅建設の目標（心豊かな人が住まう緑豊かな快適環境都市づくり）、HOPE計画の目標（ナナカマド達が織りなす公園都市を目指して）を踏まえて、以下の通りと定める。

「花と暮らしと生きがいの街をつくる」

花は、砂川市の街づくり運動として定着している花づくり、緑づくりと高齢者の趣味活動である花づくり、土いじり及び花の咲き乱れる美しい住宅地景観を示す。

暮らしは、高齢者、若壮年、子供達など多様な居住階層相互と市民のコミュニティの交流による豊かな暮らしづくり、暮らしが生活の風景、風物詩となるような活気のある住宅地景観を示す。

生きがいは、高齢者が花づくりや趣味活動を通じて、生きがいを育み、いつまでも元気良く自立生活を営むことを示す。

< 整備の基本方針 >

① 花と緑にあふれる公園のような住宅団地をつくる

公園、緑地、法面や団地周辺の灌漑溝の公園化、市道の街路樹の植栽により、四季折々の花が咲き、樹木の色が変化する公園の中の住宅団地の整備を目指す。

斜面地の土地条件を生かし、視覚的な緑の印象を強調する花壇、法面緑地を配置するとともに、団地中央部の既存の樹木（ヤナギの木）を残すものとする。

ベランダ、雁木、自転車置き場にはプランターボックスの設置や地場の基幹産業である集成材の活用により、身近な生活の中で花や緑、木材に親しむ工夫を図る。

② 砂川市の駅東地区開発をリードする住宅団地をつくる

現在、三砂地区はJR函館本線によって、砂川市街地と分断された、交通利便性の劣る地域である。

砂川市は、街づくりの施策として、市街地形態を国道なりの形態から都心部を核とした同心円への誘導を目標としており、駅東地区の市街化が課題とされている。

三砂団地は、砂川市の駅東地区開発の先鋭的事業として位置づけ、道路、公園、下水道など都市施設の体系的、先行的整備と人口の定着、活気の創出を図る面的整備事業として事業展開を図るものとする。

③ 国、北海道、砂川市と住民の連係により、総合的な住環境をつくる

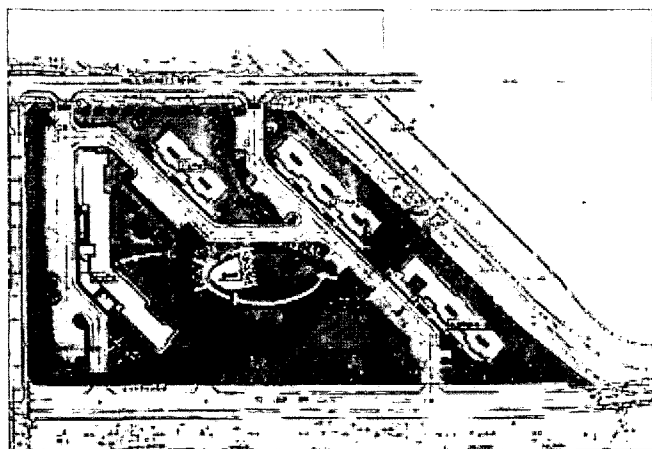
三砂団地の整備にあたっては、関連する主体ごとで以下に示す住環境づくりを図る。

国：団地に隣接する北海灌漑溝は農業法人である北海道土地改良区と国（北海道開発局札幌開発部）の国灌漑事業であり、その施設の高度利用を図り、北海道及び砂川市が公園化（灌漑溝公園）を進めている。

北海道：道営住宅70戸の建設を図る

砂川市：市営住宅18戸、市道三砂通と周辺道路の整備を図る。

住民：団地整備によって設けられた花壇、プランターボックススペースに住民の趣味と生きがい活動として、毎年、花づくりを行なうものとする



計画概要

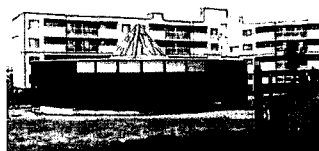
敷地面積 21,100㎡
構造、型式 鉄筋コンクリート造3階建3棟・5階建1棟
3LDK 70戸

事業実施場所 砂川市三砂町

事業種別 住宅団地

事業主体 北海道・砂川市

事業実施年度 平成4年度～平成6年度



☆ 豊富町 ☆

豊富町サロベツ住宅普及促進事業



事業概要

- モデル住宅設計事業
北海道が推進する「北方型住宅建設基準」に、風が強く雪が多い地域独自の気候条件、湿度をコントロールする性能が高い地場産材である珪藻土、地域の木材などを効果的に活用した、いつまでも住みつづけることができる住宅づくりを行う。
- モデル住宅地設計事業
雪処理を効率的に行う工夫、冬季の北風の処理を行う工夫、二世帯対応、隣地とのプライバシーの確保、敷地内の雪処理が円滑に行える余裕のある敷地規模を持つ住宅地づくりを行う。
- モデル住宅地整地事業
モデル住宅地（約0.8ha）の敷地造成、平均画地面積 395㎡、11画地の整備を行う。
- モデル住宅地公園緑地整備事業
地域の人達の日常的な交流の場となる小公園（ポケットパーク）の整備と共に、モデル住宅地北西側の外縁部に、冬の強い北風に対応するため、堰堤（緑のマウンド）の整備を行う。
[主な事業内容]
ポケットパーク（約100㎡×2カ所）、ゴミステーション
地区北西側の外縁部に堰堤整備（1,870㎡）、中高木の植栽
- モデル住宅地道路整備事業
歩行者が安心して通行できる「生活道路」を目指し、クルドサック方式を基本とすると共に、除雪時に一時的に堆雪するスペースがあるなど、豊富独自の気候、風土にも対応した道路の整備を行う。
[主な事業内容]
道路幅員 9m（車道部 7m+堆雪スペース 2m）、総延長 210m、雨水排水、照明灯、車止め



→丘室（手前）。ゼロエネギーで通年低温を維持できる収納スペース

事業実施場所	北海道天塩群豊富町西3条10丁目
事業種別	モデル住宅地整備〔（11画地）、道路、公園、緑地等〕 モデル住宅建設
事業制度	木造住宅総合対策事業
事業主体	豊富町
事業実施年度	平成年度から

計画概要

■計画の背景と目的

豊富町は、室内での化学物質の浄化、湿度調整に優れた性能を発揮する「珪藻土（稚内層珪質頁岩）」が産出され、素材としての性能が高い上に、町内外の企業によりタイルなどの市場性の高い製品開発が進められており、今後の地域経済を支える資源として、その活用が期待されている。

これにより、本計画の推進は、安定・成熟した地域社会の到来にふさわしい住宅づくりに取り組むために、地域密着型の中小工務店の大工技術ストックとメンテナンス能力と地域固有の資源を活かした住宅・住宅地づくりの具現化を図ることにある。

■計画づくりの手法

豊富町では、「豊富町サロベツ住宅普及促進事業」を進めるにあたり、「個性的で良質な住環境の形成」と「働く場の確保（地域産業の振興）」の2本を柱とし、全体を「全体構想策定段階」、「モデル住宅・住宅地整備段階」、「普及支援段階」の3段階に分け、それぞれの段階にふさわしい住民参加（住民会議、コアスタッフ会議、ワークショップ、セミナー等）の手法を設定した。

【実施事業成果】

1. 行政、住民による「将来の住宅・住宅地像」の共有化
 - ①「サロベツ住宅・住宅地づくり原則」(H11)
 - ②「モデル住宅・住宅地の計画、整備」(H13)
2. 地元各建設業者間の連携、技術取得意識の向上
 - ①「コアスタッフ会議」の組織(H12)
 - ②サロベツ住宅セミナーの実施(H13～)
3. 町独自住宅取得支援施策の施行
 - ①「サロベツ住宅建設促進支援制度」の施行(H13～)

■実現に向けた方策

1. モデル住宅（サロベツ住宅）づくり
サロベツ住宅は、豊富町住宅マスタープランの基本理念「生涯を通じて暮らしやすさが実感できる住まい、まちづくり」の実現に向け、地域独自の自然環境、建築素材を活用した住宅であり、町の良質な社会資産として、いつまでも住み続けることができることを配慮した住宅です。

2. モデル住宅（サロベツ住宅）整備の基本的な考え方

- 1) 「長持ちする」いえづくり
住宅を建てる時の家族構成や身体状況だけに対応できる住宅ではなく、子供の成長、親の同居など、将来の家族構成の変化、家族の身体状況の変化などに対応できるいえづくりを行う。
- 2) 「健康な」いえづくり
シックハウスや結露などの対策に高い効果が認められている自然素材、豊富町産出の珪藻土を住宅の内部に利用し、高気密高断熱ならではの住宅性能を活かした自然換気システムとするなど健康ないえづくりを行う。
- 3) 「生活感のある」いえづくり
地域で産出される住宅素材「珪藻土」や、古くから地域に伝わる生活の知恵「丘室（オカムロ）」をいえづくりにとりいれるなど、豊富ならではの生活感のあるいえづくりを行う。
- 4) 「冬の生活に配慮した」いえづくり
豊富町は、夏が短く冬が長いまちであることから、太陽の日差しをたっぷり住宅にとりいれ、天井も高く、ゆとりある冬でも開放的ないえづくりを行うと共に、冬季の落雪、堆雪空間にも配慮した住宅地づくりを行う。
- 5) 「共につくる」いえづくり
地域の「つくり手」、「住まい手」、「行政」が住宅・住宅地づくりに参加し、地域単位での「まちづくりルール」づくりによって単体としての「いえ」ばかりではなく、地域のことを視点にいれたいえづくり、住宅地づくりを行う。

■モデル住宅地（サロベツ住宅地）整備の基本的な考え方

モデル住宅地では、ご近所同士が、「家を建て」～「住み」～「住み続ける」という行為をとおり、豊かな住環境や近隣関係が生まれる住宅地づくりを目指して、住宅の建設方法は、コーポラティブ方式とすることで、同じ住宅地に住む人たちが、それぞれの夢、ライフスタイルなどを話し合い一緒に住まいを考えていく仕組みづくりを行う。

【住宅地の整備】

- 1) 敷地の最低規模は330㎡とする。
- 2) 建物の雪処理は、自分の敷地内で行う。
- 3) 区画道路は、通過交通が発生しない道路形態とし、冬季除雪による一時的な堆雪スペースを確保する工夫を施す。
- 4) 住宅地の北側、西側には冬の季節風を防ぐ緩衝緑地帯を整備する。
- 5) 区画道路に接する宅地部分は、半公共的な空間として、植栽スペースなどに活用し、秩序ある街並みの形成を図る。
- 6) 3軒～6軒で1つのユニットを構成することで「向こう3軒両隣り」で話し合いながら建物の設計を考えられるような仕掛けを施す。

虹別町営住宅建替事業



事業概要

『団地計画のねらい』

昭和34年から昭和50年に建設された既存の団地建替に当たり、標茶町『HOPE計画』の策定と整合性を図りながら、同計画のモデル団地として、酪農郷である地域特性を考慮し、場所替えにより『ゆとり』のある配置計画を行い、地域のシンボルとなる景観形成を図る。

住戸を木造平家建とし、外壁と内部の腰壁や天井に道産木材を使用することで『暖かさ』を求める。



計画概要

敷地面積	14,400㎡
建築面積	1,856㎡
延べ床面積	1,752㎡
構造	木造平屋建、10棟20戸
住宅タイプ	2LDK 10戸、住戸専用面積 61㎡ 3LDK 10戸、住戸専用面積 75㎡
屋外電線類	地中化（電気・電話・外灯）
団地内通路	幹線8m、補助幹線6m
幼児遊園	1個所、640㎡

事業実施場所	川上郡標茶町字虹別原野706番地
事業種別	住宅団地
事業制度	公営住宅整備事業
事業主体	標茶町
事業実施年度	平成7年度～平成10年度



望羊団地公営住宅建替事業



事業概要

計画の目的：

昭和30年代後半に建設された建物で、老朽化が著しく、居住面積も最低水準の半分にも満たない現状であり、建替により居住環境の向上を図る。

住民参加：

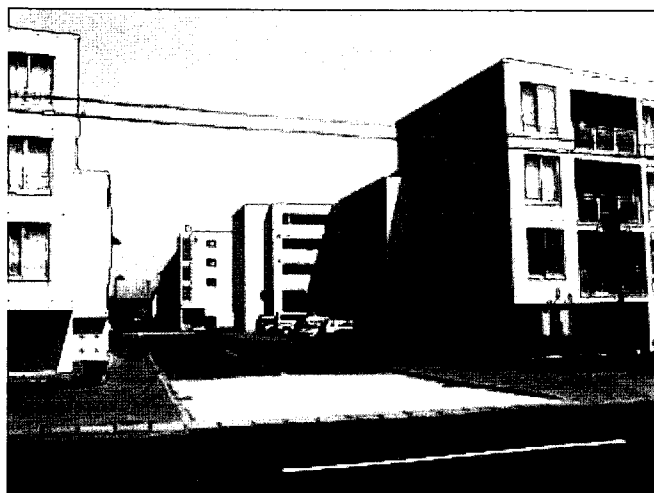
近隣にも親しまれる共同住宅を目指し、近隣と団地の代表者を集めた委員会を組織し、話し合いを重ね、実施計画を策定した。

気候風土に関する工夫：

豪雪地型集合住宅として高床式を取り入れ、住戸部分を積雪から守るとともに自転車置場、各戸の物置、オイルタンク置場、リサイクル庫等を高床部分に収納し冬期間も利用しやすくした。

地域活性化：

孤立していた団地に道路を縦断し、児童遊園を隣接させ、周辺住民の利用を考慮した配置計画とし、世代を問わないコミュニケーションの場として、地域にひらかれた団地を目指す。



計画概要

敷地面積	13,964㎡
建築面積	2,396㎡
延べ床面積	9,229㎡
構造	中層耐火構造
型式	片廊下型
階数	3階建及び4階建
棟数	3棟
タイプ別住戸面積	2LDK 57.8㎡ (22戸) 2LDK 69.6㎡ (33戸) 3LDK 78.1㎡ (28戸)

事業実施場所 俱知安町北4条4丁目3番地4

事業種別 住宅団地

事業制度 公営住宅整備事業

事業主体 俱知安町

事業実施年度 平成8年度～平成11年度

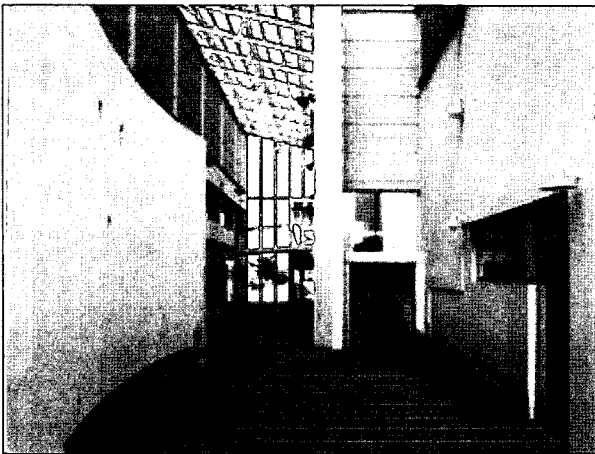


アグリタウン上ところ



事業概要

北見市地域住宅計画（HOPE計画）は“ふゆトピア構想”、「市街地整備基本計画」と連携し、住宅のもつ社会性、地域性を視点におき、住民参加による「地域に根ざした住まいづくり・まちづくり」を目的としている。上ところ地区は、農村地域のセンターとして機能を担っていることから、農業退職者の吸収策、増大する高齢者の生きがい対策、需要に応じきれない市の貸農園対策などに積極的に貢献することが期待できる。そこで、こうした地域特性を活かし、アグリカルチャー（農業）を計画のテーマとしたまちづくりを考え、今回、そのテーマに沿った公営住宅建設事業に併せ、中心市街地である駅周辺に公共公益サービスとして様々な複合施設を集約し、各世代交流のコミュニティー環境づくりと交通機関や公共機関が一体となった利便性の高い居住環境の整備を図り、潤いと活力のある環境形成と農村市街地における中心核としての先導的、誘導的役割を果たしている。また、さくらの名所としての知名度がある金刀羅山から上ところ市街地までに至る道路を整備し、沿道景観形成を通して地域文化の育成を目指している。



計画概要

敷地面積	8,777.85㎡
建築面積	1,898.85㎡
延床面積	4,348.85㎡
構造	鉄筋コンクリート造
型式	積層型
タイプ別	49.00㎡(1LDK)9戸
住戸面積	62.30㎡(2LDK)7戸
	63.30㎡(2LDK)2戸
	73.50㎡(3LDK)8戸
	74.50㎡(3LDK)4戸
住戸数	30戸
階数	5階
街路事業	上ところ1条道路延長(479.96㎡) 黒部の沢道路延長(1,925.15㎡)

事業実施場所 北見市上ところ682番地の1,686, 3-3
 事業種別 住宅団地、市役所出張所、地域会館、
 駅舎、駅前広場、駐車場道路
 事業制度 公営住宅事業、特定交通安全施設等整備事業
 事業主体 北見市
 事業実施年度 平成5年度～平成6年度

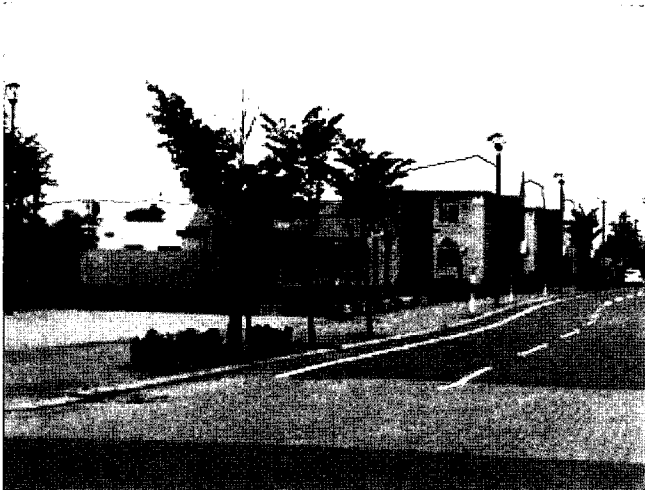
ウッドタウン相内事業



事業概要

北見市地域住宅計画（HOPE計画）は“ふゆトピア構想”、「市街地整備基本計画」と連携し、住宅のもつ社会性、地域性を視点におき、住民参加による「地域に根ざした住まいづくり・まちづくり」を目的としている。相内地区は、クラフト工芸、木材関連産業の集積が高く、市街地内には優良な樹木が多く見られ、近年、木の持つ柔らかさ、暖かさ、潤い、強さなどの特性が見直され、豊かな生活環境のシンボルとして多く活用されている。このことから、地場産業の地域特色を生かし、ウッド（木）を計画テーマとしている。今回、こうしたテーマに沿って地域整備の先導的、誘導的な役割として、公営住宅建設において、地場産業である木の活用や周辺沿道景観と調和した低層設置型の住宅環境景観づくり、更には駅前広場を再整備し集会場、駐輪場等、うるおいのあるコミュニティ環境づくり、自然素材活用の住宅環境づくりを目指した。

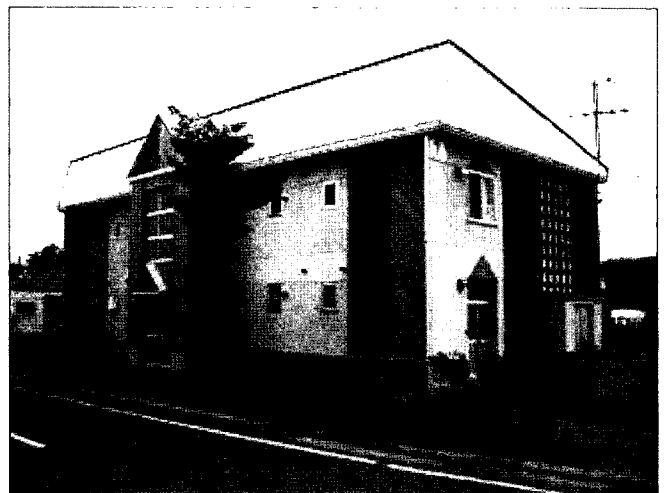
また、北見特有の気候・風土にあった雪と寒さに強い住宅環境づくりにも配慮している。

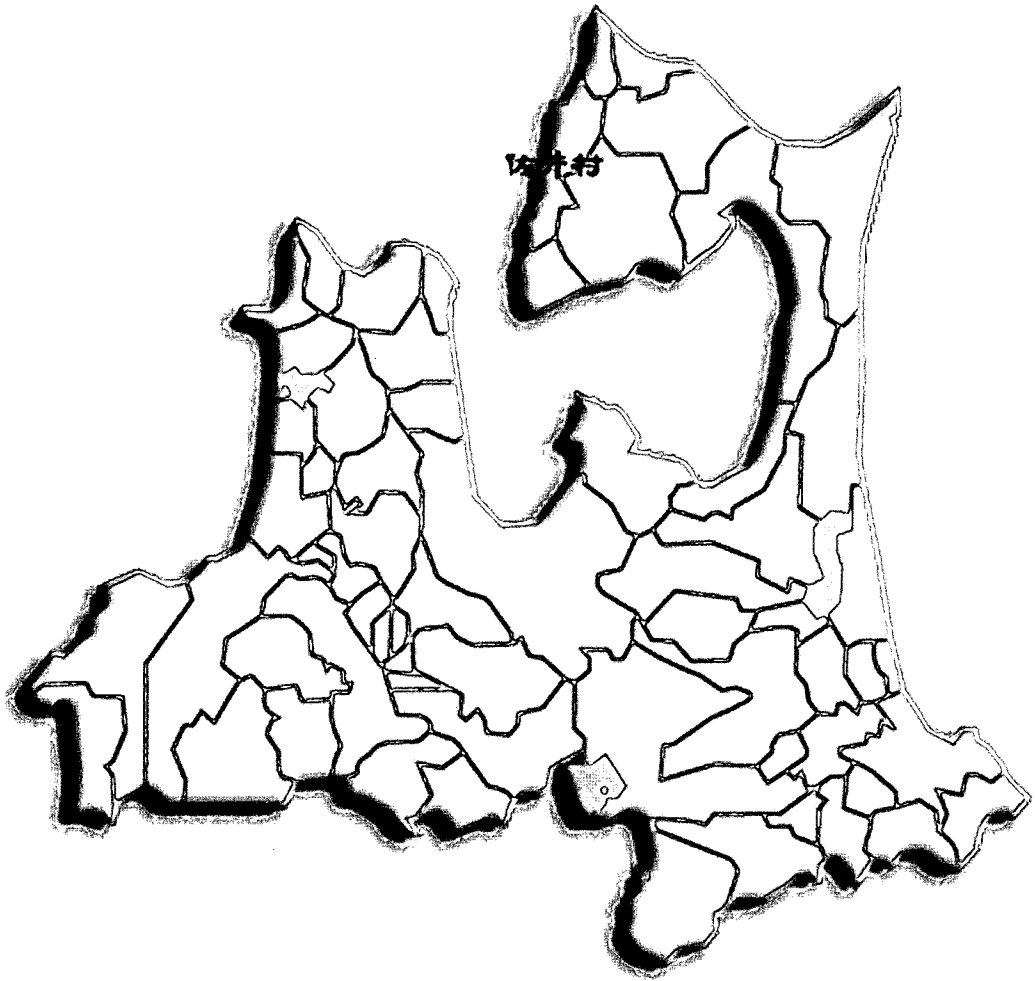


計画概要

敷地面積	2,965.64㎡
建築面積	172.10㎡ (1、3号棟) 177.34㎡ (2号棟)
延べ床面積	84.10㎡ (団地集会場) 323.02㎡ (1、3号棟) 332.66㎡ (2号棟) 67.23㎡ (団地集会場)
構造	コンクリートブロック造 一部鉄筋コンクリート造、木造 (団地集会場)
型式	積層型
タイプ別住戸面積	59.16㎡ (1、3号棟2LDK) 2戸 68.39㎡ (1、3号棟3LDK) 6戸 70.80㎡ (2号棟3LDK) 4戸
住戸数	12戸 (1棟4戸×3棟)
階数	2階
街路事業	相内駅前横道路延長 (551.71m) 駅前広場、駐輪場 (65台収容)

事業実施場所	北見市相内町357番地の6
事業種別	住宅団地、団地集会場、道路、駅前 駐車場、駐輪場
事業制度	公営住宅事業、特定交通安全施設等 市整備事業
事業主体	北見市
事業実施年度	平成7年度





青森県
HOPE奨励賞受賞市町村

古佐井大町地区村営住宅整備事業

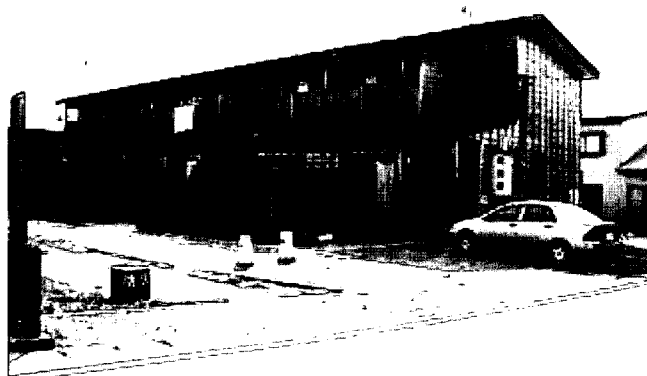


事業概要

- 住民参加により策定した住宅マスタープランが基本となっている。
- 佐井村マスタープランの周知等を図るためのモデル住宅としての役目を果たしている。
- 木の香る佐井村らしい家づくりのため、気候風土を生かし、昔ながらの町並み・雰囲気を変えない伝統的建築物を意識した外観として、外壁を下見板とした。また、伝統文化を継承する構造等として、ウッドデッキ設置等の工夫を行っている。
- 地場産材活用（青森ヒバ等）による住宅整備。
- 地域の活性化のための住宅整備。
- 地域人材の活用や地域人材の育成を考えた住宅整備事業。

計画概要

敷地面積	1275.7㎡
建築面積	269㎡
延べ床面積	399.9㎡
構造	木造2階
型式	1棟5戸2LDK
タイプ別住戸面積	79.9㎡
住戸数	5戸
階数	2階



事業実施場所	下北郡佐井村大字佐井字古佐井68番地
事業種別	住宅団地
事業制度	公営住宅整備事業
事業主体	佐井村
事業実施年度	平成10年度実施・完了

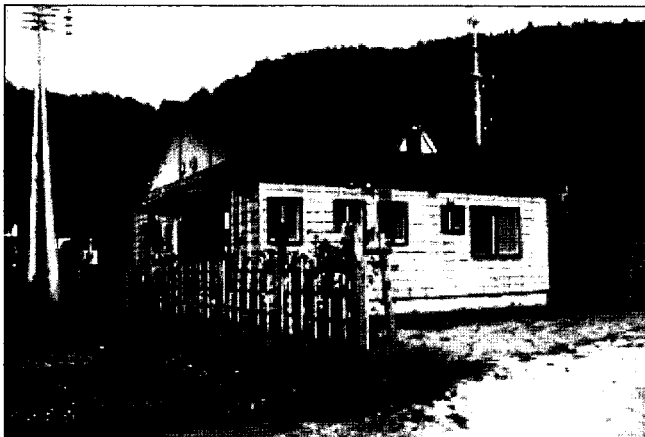
☆ 佐井村 ☆

大佐井新町地区村営住宅整備事業



事業概要

- 住民参加により策定した住宅マスタープランが基本となっている。
- 佐井村マスタープランの周知等を図るためのモデル住宅としての役目を果たしている。
- 木の香る佐井村らしい家づくりのため、気候風土を生かし、昔ながらの町並み・雰囲気を壊さない伝統的な建築物を意識した外観として、外壁を下見板とした。また、伝統文化を継承する構造等として、ウッドデッキ設置等の工夫を行っている。
- 地場産材活用（青森ヒバ等）による住宅整備。
- 地域の活性化のための住宅整備。
- 地域人材の活用や地域人材の育成を考えた住宅整備事業。



計画概要

敷地面積	1699.94㎡
建築面積	421.7㎡
延べ床面積	393.3㎡
構造	木造平屋
型式	5棟5戸2LDK
タイプ別住戸面積	78.66㎡
住戸数	5戸
階数	1階

事業実施場所 下北郡佐井村大字佐井字大佐井川目39番地13
事業種別 住宅団地
事業制度 公営住宅整備事業
事業主体 佐井村
事業実施年度 平成11年度実施、平成12年度完了



